

◆ 今週のコメント

- マラリア(熱帯熱)の報告が1例(女性, 30歳代)あります。推定感染地域は、国外(ケニア キムス)で、推定感染経路は蚊からの感染です。本年の累積報告数は2例です。
- 梅毒(早期顕症・I期)の報告が1例(男性, 20歳代)あります。症状は、硬性下疳で、推定感染地域は国内です。感染経路は、性的接触(異性間)となっています。本年の累積報告数は6例です。
- インフルエンザの本市の定点当たり報告数は、0.01(1例)で、先週(0.01, 1例)と同じです。京都市内の病原体定点から10月末に採取された検体から、京都市衛生環境研究所で今シーズン1例目のインフルエンザウイルスA/H1pdm09型が分離・検出されました。全国においては10月以降、A/H3型(香港型)が10例、B型が2例検出されています(平成24年11月12日現在)。
- 基幹定点から、マイコプラズマ肺炎の報告が1例あります。全国の定点当たり報告数は1.31で、平成11年4月の感染症発生動向調査開始以来の同時期と比較して、多い状態が1年間以上にわたって継続しています。今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.37(220例)で、4週連続で増加するとともに、過去5年平均値を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類: 結核 7例(肺結核 3例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 380例(肺結核 159例, その他結核 81例, 潜在性結核感染者 140例)うち喀痰塗抹陽性 77例】
- 四類: マラリア(熱帯熱) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類: 梅毒(早期顕症・I期) 1例【1月以降の累積報告数 6例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.37	220
	② RSウイルス感染症	0.98	40
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.63	26
	④ 水痘	0.51	21
	⑤ 突発性発しん	0.27	11
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

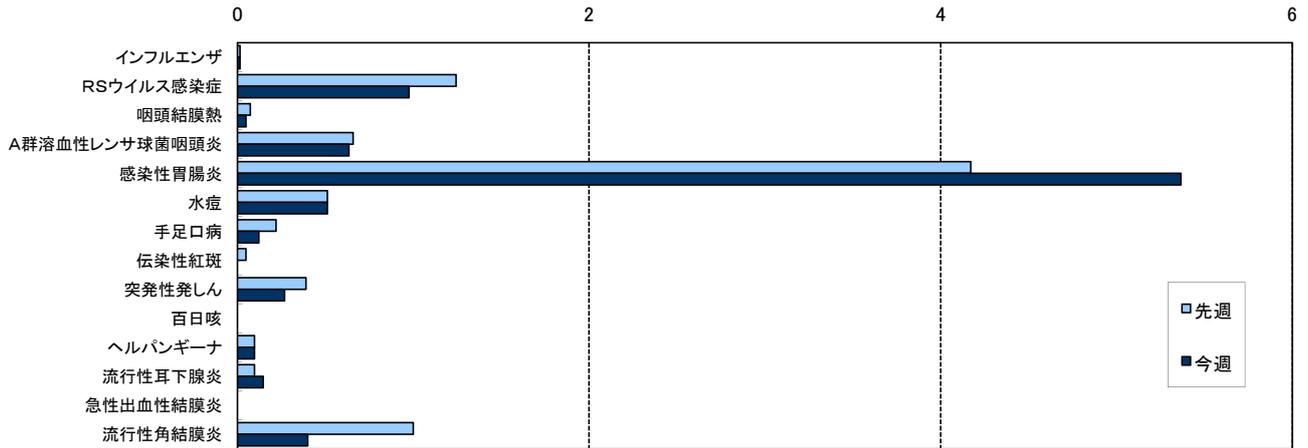
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

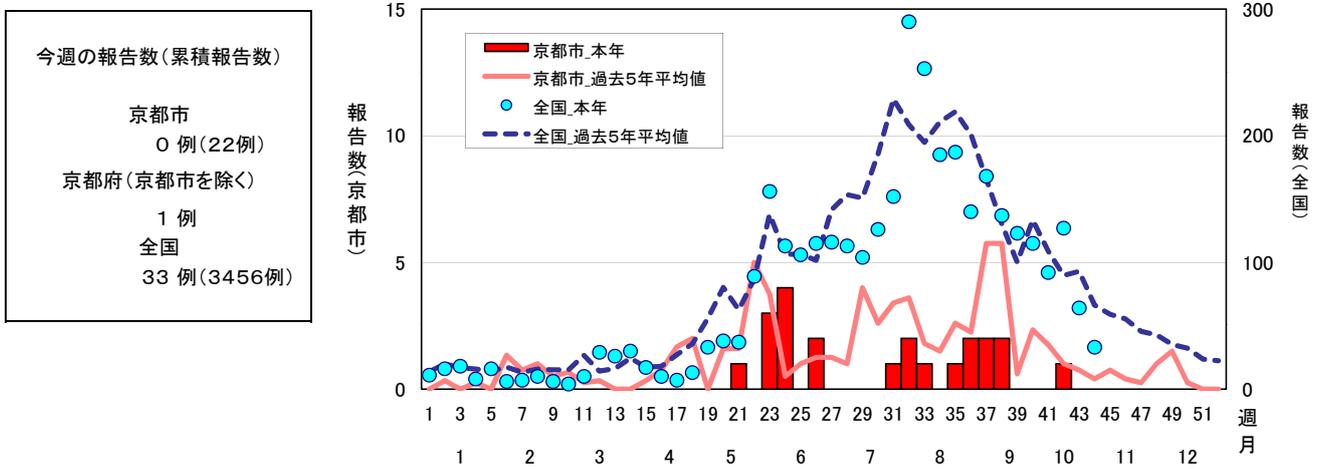
(注) 京都市のデータは、平成24年11月8日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第44週)と先週(第43週)の定点当たり報告数の比較



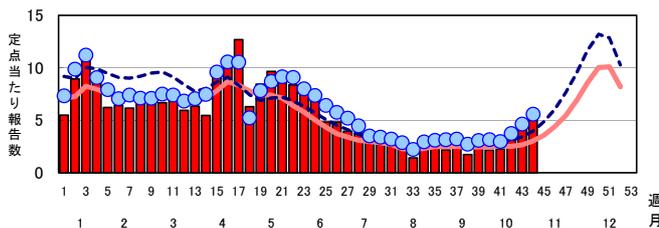
2 腸管出血性大腸菌感染症の推移



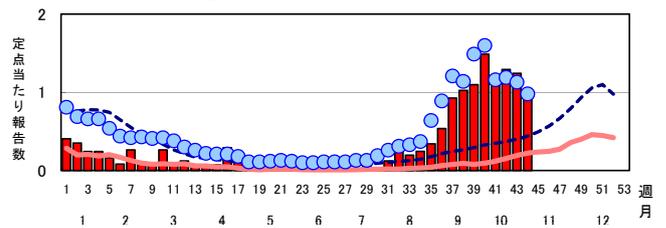
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

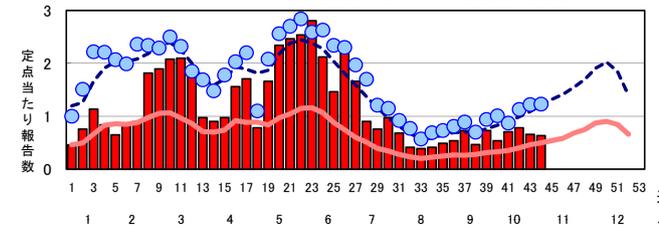
1 感染性胃腸炎



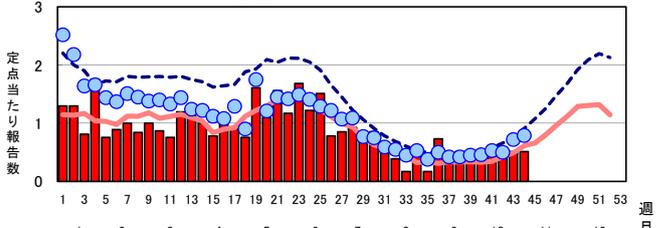
2 RSウイルス感染症



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

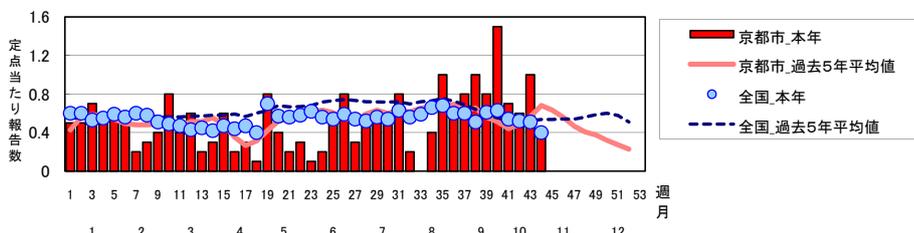


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第44週(10月29日～11月4日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.37(220例)で、4週連続で増加するとともに、過去5年平均値を大きく上回っています。

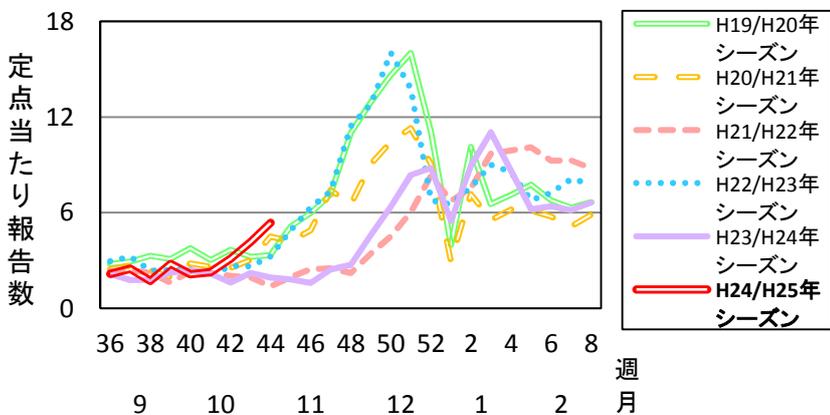
例年、ノロウイルス感染を原因とする感染性胃腸炎がこの時期から増加し、12月～1月中にピークを形成します。本年は、比較的大きなピークを形成した平成19/20年シーズン、及び平成22/23年シーズンと比べても、流行の立ち上がりが早く、報告数も上回っています。今後の動向にご注意ください。

年齢群別にみると、各年齢層から報告がありますが、本市及び全国ともに1歳(本市 18.6%, 全国 17.3%)がもっとも多くなっています。

本市の定点当たり報告数の推移



過去5シーズンの流行状況



	ピーク時週数	ピーク時 定点当たり報告数
H19/H20年 シーズン	平成19年 第51週	16.0
H20/H21年 シーズン	平成20年 第51週	11.3
H21/H22年 シーズン	平成22年 第5週	10.1
H22/H23年 シーズン	平成22年 第50週	16.0
H23/H24年 シーズン	平成24年 第3週	11.1

年齢群別割合の推移

